

C-47 婦人服におけるカジュアル化の傾向 —第2次大戦後の商品別伸び率から—

実践女大家政 鍛島 康子

1. 第2次大戦後から今日までの約20年間に、衣服は急速にスポーティまたはカジュアル化した。ここではこの事実を既製服生産量より統計的に後づけることを目的とした。

2. 大戦後婦人既製服統計の商品別構成は一般に、スーツ、コート、ドレス、ブラウス、スカートが主になっている。ここではこれを大別して、スポーティまたはカジュアルな服型であるブラウス、スカート及びスラックス群と他群に分け、主としてアメリカ(商務省発表)の製造に関する国勢調査(1947~1967年)と日本繊維協議会(繊維年鑑)の既製服製造業者の生産量(1958~1967年)の各々の増加率を比較分析し検討した。

3. アメリカではここ20年間にスカート単独の伸び率は著しかった。次いでブラウスも相当の伸び率を示しているのに比し、ドレス、スーツ、コートはそれ程の伸びを示していない。日本でもやはりスカート、スラックス、ブラウスの伸び率は大きい。両群の差はほとんどみられなかった。総じてセパレート商品の伸び率は著しいが、この統計から、日本とアメリカのカジュアル化の相違も明らかになった。